

地元高校生が市内探検！

「ぷらっと坂東」開催



▲型吹きガラス作り体験の様子

て実施したものです。

当日は、最後に意見交換を行い、坂東市をどう活性化していけるか？どんな企画や事業を進めていくべきか？などを話し合いました。

生徒たちは今後、肌で感じたことをもとに、若い感性で市の将来を考えていきます。

8月3日、岩井高校および坂東総合高校の2・3年生19人が、市内活性化のヒントを検討するため、坂東ガラス工房「秀緑」で型吹きガラス作り体験、ミュージアムパーク茨城県自然博物館見学、そして商店街巡りをしながら坂東の魅力を探りました。

この事業は、岩井高校と坂東総合高校の生徒を対象に実施した「高校生議会傍聴」と「高校生意見交換会」に参加したかたの中から参加者を募つ



▲意見交換会で真剣に坂東市を考えています

■お問合せ

企画課 青少年社会参加推進室
岩井臨時庁舎 内線3601

ばんどう

まぢづくり

坂東市長 吉原英一



赤ちゃんも

お母さんも

笑顔の子育てを

あるイベント会場でのこと。小さな子が地べたに這いつくばって延々と泣き続けていたので、傍らにいたお母さんに「どうしたの？」と話しかけてみました。「欲しいジュースを選びなさい」と子どもに自動販売機のボタンを押させたところ、いざ出てきたものを見て「これじゃ嫌だ！」と泣いているというのです。「あなたが自分で選んだんだから」と機嫌をとるでもなく、毅然と子どもを見守る姿に思わず「お母さん強いね。」と声をかけると、「今がこ

の子と私の勝負のときなんです。」と切々たることばが返ってきました。子育てを頑張っているお母さんの姿にいたく感動を覚えた出来事です。

子育ては喜びや楽しみ、夢や希望など、たくさんのお宝物を与えてくれるものですが、同時に不安や悩みが絶えないものでもあります。特に外出先では「騒いでもわりに迷惑をかけないか」「まわりの人はどう見ているんだろう」とさまざまな葛藤の繰り返しだと思います。そんな子育て世代を支援していくと、市では「ばんどうちゃん100倍！B・U・Pプロジェクト」を市役所職員で立ち上げ、若者の出会いから出産、子育てまで、一連の支援策について検討を進めています。その一つとして、坂東市の赤ちゃんとお母さんのための「子育て応援コラム」の連載が始まりました(8ページをご覧ください)。

「外出先でも気にせず授乳できる授乳服づくり」に

とことんこだわり、たくさんのお母さんのお出掛けをサポートしている会社「モーハウス」さんとのコラボレーション企画です。執筆である代表の光畑さんは、ご自身の子育ての経験から仕事も子育ても頑張る女性を応援したいというエネルギーと、お母さんの優しく温かい雰囲気や常にとっているようなかたです。先の熊本地震では被災地に授乳服を送るなど、お母さんの気持ちに寄り添った支援に取り組み、「被災地では仕方がない」と諦めていたお母さんたちの心にいくつもの明かりを灯したことを思います。

子育て応援コラムは、お母さんはもちろん、お母さんをサポートするお父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、これからお母さんになるみなさんにもぜひ一読いただきたいと思っています。赤ちゃんとお母さん、周りの人たちにたくさん笑顔をもたらし一助となれば幸いです。